

氏名	武田美津代	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	基礎看護学				
学位	修士(学術)				
学歴	1984年埼玉県立短期大学第一看護学科、97年放送大学教養学部生活と福祉専攻、2001年又教大字大学院修士課程 人間科学研究科生涯学習専攻、08年埼玉県立大学認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケアコース				
経歴	1995年新潟県立看護短期大学助手、98~2002年埼玉県立衛生短期大学(埼玉県立大学短期大学部看護学科)助手、06年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、09~11年埼玉県立大学認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケアコース講師、15年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授				
所属学会(役職)	日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本褥瘡学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、日本創傷・オストミー失禁管理学会、日本生涯教育学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了 ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1)著作					
1	該当なし				
(2)論文					
1	該当なし				
(3)学会発表					
1	A病院で専従看護師の活動に関する意識調査	共著	第16回日本看護学会 管理学会、福岡市	○後藤真由美、川上公子、 武田美津代 、山田博文	2015.9月
2	SOAP法の看護記録の特徴と表現の一考察～5事例の診療録の分析を通して～	単著	第14回日本看護技術学会、松山市	○ 武田美津代	2015.10月
3	臨床での看護実践の状況(第2報)-看護系雑誌から集積した「がん患者」「脳血管障害患者」事例の看護実践状況-	共著	第14回日本看護技術学会、松山市	○中山久美子、宮城恵里子、平松則子、小林由子、 武田美津代 、大宮裕子、新井恵子、前田志名子、石向節子、川嶋みどり	2015.10月
4	臨床での看護実践の状況(第3報)-看護系雑誌から集積した事例から「在宅療養患者」への看護実践状況-	共著	第14回日本看護技術学会、松山市	○ 武田美津代 、中山久美子、宮城恵里子、平松則子、小林由子、大宮裕子、新井恵子、前田志名子、石向節子、川嶋みどり	2015.10月
5	An intergenerational program for local elderly individuals and nursing students	共著	19th East Asian Forum of Nursing Scholars	○Hiroe Hayashi, Mitsuyo Takeda , Nobuko Kimura, Pingping Zhang, Mitsuyo Azegami, Natsuko Suka	2016.3月
(4)その他					
1	武里団地における住民主体の健康なまちづくりー若者と築く「健康長寿武里モデル」(武プロ)ー;テーマ⑤認知症を予防するための地域高齢者への支援プログラムの検討	共著	埼玉県立大学奨励研究 報告書Ⅰ	○林裕栄、 武田美津代 、木村伸子、張平平、畔上光代、須賀夏子	2016.2月
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)		相手内臓又は肩周り筋肉の活性化による血流改善とコラーゲン形成に関する形態学的研究(研究分担者)		2014.4~2017.3
2	フランスベッド助成金		在宅で生活・療養するリンパ浮腫患者に対する弾性着衣の適切な装着と望ましい状態を保障するための研究(研究分担者)		2015.6~2016.5

3. 教育業績			
講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
(1) 講義			
1 看護過程論	2015.11～2016.2	紙上事例を用いた看護過程の展開方法は学生のペースに合わせて時間調整を行い演習した。演習では担当教員も小グループを巡回しながら講義内容を補足するようにした。	
2 看護方法Ⅰ	2015.11～2016.2	科目責任者と協力し、技術演習を行った。演習では技術の手本を示し、学生に動き方を指導した。	
3 看護方法Ⅱ	2015.4～2015.7	看護技術の原理原則を重視し、担当教員と共に援助方法を指導した。限られた時間内に全学生が演習できるよう、時間配分に工夫した。	
4 看護方法Ⅲ	2015.4～2015.6	科目責任者と協力し、技術演習が効果的になるよう事前検討を行った。時間配分、内容などを検討した。	
5 看護方法Ⅳ	2015.7	科目責任者と協力し、観察手技の指導を行った。紙上事例に対する看護援助を検討し、臨床を想定した演習になるよう患者への対応について指導した。	
6 感染管理	2016.1	臨床における感染対策が学べるようゲストスピーカーを招き、実践的な活動を知る機会を設けた。選択科目であり、感染症ごとの対策を学べるようゲームを取り入れた。	
7 認定看護師教育課程 専門科目 症状マネジメントと援助技術VII	2015.12	緩和ケアコースの受講生30名に対し、患者の倦怠感など緩和するためのマッサージ法、リラクセーションについて講義と演習を行った。実習場面で活用しやすいハンドマッサージとフットマッサージを取り入れた。	
(2) 演習			
1 該当なし			
(3) 実習			
1 基礎看護学実習Ⅰ	2016.2	1年生36名を引率し、見学実習を指導した。初めての専門科目の実習であり、学生の体調管理、事故防止に努めた。	
2 基礎看護学実習Ⅱ	2015.1	2年生10名(5名×2クール)の受け持ち実習を指導した。患者・学生の安全を確保できるよう学生のケアに同行し、臨床指導者と連携して指導した。	
3 ヒューマンケア体験実習	2015.9	グループの科目責任者として実習担当教員が円滑に指導できるよう連絡をとった。実習施設担当として学生6名の実習指導を行った。	
(4) 論文指導			
1 卒業研究	2015.4～2016.1	学生4名を担当した。	
(5) その他			
1 該当なし			
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1 周術期疼痛管理研究会 教育セミナー 特別講義	周術期疼痛管理 研究会	日常のケアに活かせる技術を身につけよう 「周手術期に行えるリラクセーション技術」	2015.12月
2 新卒者など訪問看護師養成プログラム	埼玉県訪問看護 ステーション協会	褥瘡ケア、ストーマケアについて	2016.1月
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1 埼玉ストーマリハビリテーション講習会実行委員会	委員	2015.11月～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言			
メディア等の名称	内容	年月	
1 該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)			
1 学生支援委員会 委員			
2 看護学科内 国家試験対策プロジェクト			
3 看護学科内 就職支援プロジェクト			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
受賞名	主催	受賞年月	
1 該当なし			
7. 特許の保有状況			
特許名	特許番号	登録年月	
1 該当なし			
8. 特記事項			
1 該当なし			